

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉦業振興費

事業名 伝統的工芸品技術継承促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

工労働部 地域産業課 伝統産業振興係 電話番号：058-272-1111(内3787)

E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,062 千円 (前年度予算額：6,860 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	6,860	1,798	0	0	0	0	0	0	5,062
要求額	5,062	1,481	0	0	0	0	0	0	3,581
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

伝統工芸品は、本県のモノづくり産業の原点であり県の誇りである。さらに本県の伝統や文化を現代に継承し、生活の豊かさや潤いを与えるものであることから、次代に継承すべき貴重な宝である。

しかし、県内の伝統工芸産業は、中小零細性が強く、生活様式の変化や安価な輸入品の増加により、業界をめぐる環境は悪化し、業績の低迷、原材料不足、後継者不足が課題となっている。加えて、後継者不足から生じる伝統技法の継承とそれを支える製造用具の確保も課題となっている。

(2) 事業内容

本県の伝統工芸品産業の振興を図るため、伝統技法の継承に向けた記録保存を支援するとともに、原材料確保の支援、需要拡大・販路開拓を支援する。

- 1) 伝統的工芸品等の製造用具等のアーカイブ化
 - ・ 伝統的工芸品等の技術継承のため、製造用具等の確保に向けたアーカイブ化（設計図等の作成等）を進める。
- 2) 原材料の確保に向けた調査研究
 - ・ 伝統的工芸品等の原材料の確保のため、調査研究を実施する。
- 3) 伝統的工芸品の需要開拓、販路拡大に向けた取組みの推進
 - ・ 大都市圏等での展示販売を実施する。
 - ・ 県の伝統工芸品を紹介するパンフレットを作成する。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県のモノづくりの原点である伝統的工芸品等の振興を図る取組みとして県の負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	246	職員業務旅費
需用費	25	消耗品
委託料	4,791	展示販売・出展経費、アーカイブ等
合計	5,062	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流のぎふ」創生総合戦略

[3]地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

④「ぎふブランド」づくり

(2) 事業主体及びその妥当性

本県の伝統的工芸品の振興を図るとともに、その伝統技法を将来に継承していくため、それらを支える製造用具の確保や、需要拡大・販路開拓等の支援を実施するものであり、県が事業主体となることは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 地域ブランドの育成や県産品の市場の拡大を図り、ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくりを目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1末)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
振興計画の策定数	4	2	6	6	6	33%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 全国の伝統的工芸品を一堂に集めた工芸品展が首都圏で開催され、出展する組合を支援した。また、伝統的工芸品に特化した国内最大級の場である青山スクエアでの展示会を開催した。</p> <p>(1) 暮らしの中の伝統的工芸品展 日時：令和2年8月19日（水）～26日（水） 場所：小田急百貨店 来場者数：702人（概算）（初開催のため前年度の実績なし）</p> <p>(2) 伝統工芸青山スクエア特別展 日時：令和3年1月8日（金）～21日（木） 場所：伝統工芸青山スクエア 来場者数：1,550人</p>
	指標① 目標：6 実績：4 達成率：66%
令和3年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 全国の伝統的工芸品を一堂に集めた工芸品展が愛知県で開催され、出展する組合を支援した。また、伝統的工芸品に特化した国内最大級の場である青山スクエアでの展示会を開催した。</p> <p>(1) 2021全国くらしの工芸展・愛知 日時：令和3年11月27日（土）～29日（月） 場所：Aichi Sky Expo Aホール 来場者数：138,000人（概算）</p> <p>(2) 伝統工芸青山スクエア特別展 日時：令和4年1月7日（金）～20日（木） 場所：伝統工芸青山スクエア 来場者数：2,094人</p>
	指標① 目標：6 実績：2 達成率：33%

令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない 	
(評価) 3	事業者の大半が中小零細事業者であり、財政基盤が弱い弱であるため、伝産協会（経済産業省）と連携した取組みなど、継続した業界支援が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 3	一般消費者やバイヤーも含め、国内でも最大の購買層がいると考えられる大都市圏において、積極的に展示販売事業を実施することにより、各事業者は、伝統的工芸品等の効果的な普及啓発、需要喚起を図ることができるとともに、消費者ニーズの把握を通じた新商品開発に資するため、有効である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている 	
(評価) 2	事業内容を精査したうえで、必要額のみを予算措置し、経費削減につとめている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 人々の生活スタイルや嗜好の変化に伴い、本県の伝統的工芸品の需要は著しく縮小している。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 伝統的工芸品は、現在のモノづくり産業の原点であるとともに、本県の伝統や文化を他県や外国へアピールする象徴であり、失ってはならない本県の貴重な宝であるため、引き続きその魅力をPRし、需要拡大にかかる支援が必要である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	